

(127) 栃木県足利市の岩切鉾山

栃木県の登山案内本(1)を見ていたら、足利と桐生の県境に聳えている仙人ヶ岳の岩切コースの登山ルート上に、「マンガン採掘鉾跡」の文字が記されているのが目に飛び込んだ。手元にあるマンガン鉾に関する資料を見て、この鉾跡は「岩切鉾山」跡であると判断した。岩切鉾山の鉾床図も入手することができた。これらの資料を手引きに、数度にわたって、現地の探査を行った。しっかりと、岩切鉾跡を確認した。

現地への経路は次の通りである。50号で、小山方向から足利に向かっていくときは、北関東自動車道の下を通り過ぎた先で、左折し、219号に入って北上していく。219号は松田川ダムに向かっている。松田川ダムの少し手前で、左折し、218号に入り、猪子トンネルを通過する。トンネルを通過すると、道は下っている。直ぐに、仙人ヶ岳への岩切登山口が右手に見えてくる。ここより100m～200m先の右側に適当な駐車場がある。仙人ヶ岳登山者も利用できるスペースとして用意されたものと思われる。ここに車をおけばよい。登山口からのルートの所要時間は登山案内書通りであるが、鉾山の探査が目的なので、ルート周りの様相の観察も大事な課題である。ゆっくり歩いて、1時間弱で、生不動尊に行き着く。ルートは登山道なのでよく整備されている。

不動尊の少し先、登山道の左手脇に、金網で防護された坑口跡があった。道を更に先に進んでいくと、幾つもの坑口跡がある。

探査日 2013年5月～7月

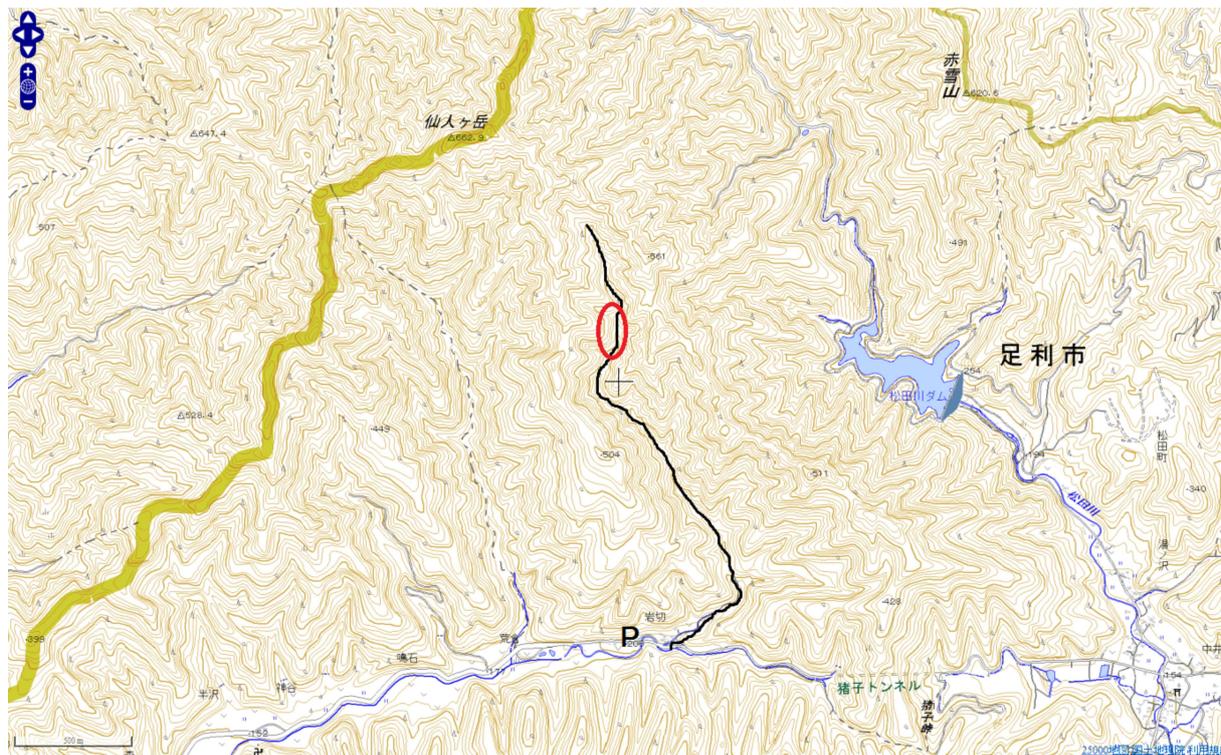


図1 国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。赤丸当たりが岩切鉾跡。岩切地区から仙人ヶ岳への登山ルートの途中にある。黒線で途中までの登山ルートを書き込んでいる。従って、登山案内書も参考にするといよい。P点のあたりに駐車広場がある。

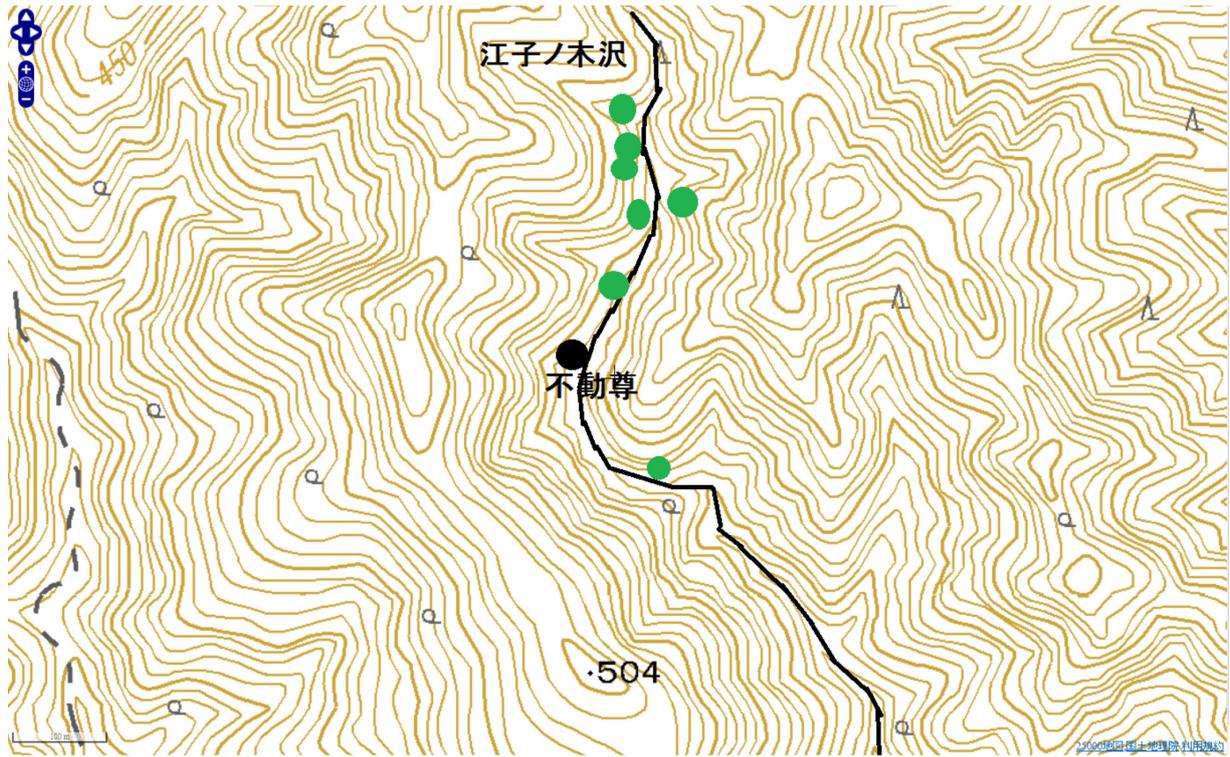


図2 図1の拡大図。不動尊の先あたりから、登山道脇に、幾つもの坑口跡がある。黄緑丸が坑口跡。特に、江子ノ木沢にある坑口跡は、マンガン鉱山としては非常に大きい。ズリらしいところもあるが、めぼしい標本は採集できていない。道は整備されている登山道なので、歩くのに不安はない。余力があるならば、仙人ヶ岳まで登るのもよいであろう。頂上近傍に露頭鉱脈がある。と、参考文献に記述がある。

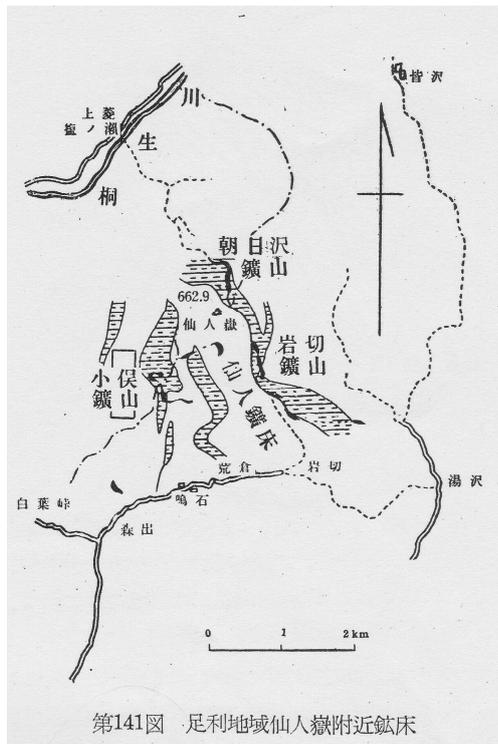


図3 参考文献(2)より。この鉱床図と、仙人ヶ岳の登山案内図を対照すれば、登山案内図中のマンガン鉱山跡は岩切鉱山跡であることがわかる。

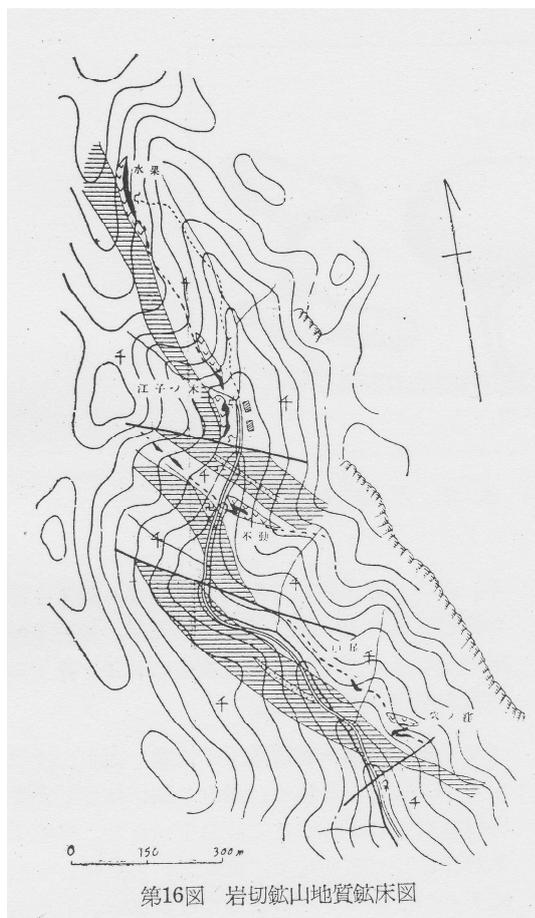


図4 参考文献(2)より。現在の登山道は、図中の道、そのままである。現在では、江子ノ木より先に、沢沿いに登山道は延びており、仙人ヶ岳まで達している。江子ノ木の先にある水菓鉱床付近も探査したが、登山道からの登り道を見つけることができなく、確認することができなかった。この鉱床図中には幾つかの鉱床が紹介されているが、確認できたのは江子ノ木鉱床近傍だけである。

鉱山跡写真



写真1 岩切地区。右が218号。正面の側道が、仙人ヶ岳、つまり鉱山跡への登山入口。



写真2 大分朽ちてきている生不動尊。人手が入らなくなってきているだろう。右端が沢。その左側が登山道。



写真3 不動尊の少し先にあった、登山道脇の坑口跡。金網で防護されている。少し鉦内水が流れ出し、登山道を横断している。



写真4 登山道の左側にある小さい枯れ沢の両側に、保安用金網が立っていた。縦坑のような大きな坑口が開いている。露頭鉦脈に沿って掘り込んだ跡のようである。江子ノ木鉦床跡と思われる。とすれば、正面の沢は江子ノ木沢。

この所で、右側の尾根を登り上がれば、水菓鉦床跡にたどり着けるかもしれない。図4からわかるように、この尾根沿いに露頭鉦脈が伸びているので、露頭鉦脈の観察もできるかもしれない。

採集鉱物写真

特になし。

参考文献

- (1)「新・分県登山ガイド [改訂版] 8 栃木県の山」、山と溪谷社、2010年。」
- (2)「日本のマンガン鉱床」、吉村 豊文、1952年。